

奈良・人と自然の会

新春を迎えて



会長 川井 秀夫

明けましておめでとう御座います。

今年は申年(きのえさる)。オリンピックやアメリカ大統領を始め、各国の元首の選挙も多く、政治・経済に大きな変動の年と言われております。国際・社会情勢を踏まえ、心新たにこの一年を迎えたいと思います。

「奈良・人と自然の会」も三年目を迎えました。石の上にも三年と言いますが、会員各位のご理解とご協力により、それなりの基盤が出来つつある事を実感致しております。

既存の活動路線(月例行事・東海自然歩道)に加え、黒髪山 工作教室、棚田クラブに対する支援、県・市行政主催行事への参画と、一般社会の人々との交流の機会も増えて参りました。更に国有林の間伐作業、社叢(鎮守の森)調査、野鳥観察グループ、メダカ調査等々立ち上げの時期を考慮中ですが、これらの活動も会員各位の支えがあってこそと考えております。ご意見、ご助言を率直に事務局へ寄せて頂きたいと思っております。

私も今年は年男。申年に因んで考えて見ました。古来、「三猿主義」が美德の様に言われて来ましたが、今年は見ざる・聞かざる・言わざるを排し、見る(観察の目を養う)聞く(相手の意見を良く理解する)言う(建設的な意見を述べる)加えて行動する(参加意識を身につける)を改めて実践したいと考えております。

シニア自然大学も十周年の節目を迎え、新しい講座生が卒業して来ます。奈良県在住の方が十余名おられますが、ぜひ我が会員として入会をお奨めし、新しい風を吹きこんで頂きたいものと願っております。

自然観に対するアイデンティティは共通のものがありますが、それぞれに価値観が異なります。色々なステージを選択していただき、どこかでお会い出来る事を楽しみにしたいと思います。

どうか今年もお元気で、会の更なる発展に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

12月度例会 大和三山めぐり

市村 米子

今日は朝から曇り空。それでも昼からは良くなってくるという天気予報に期待をかけ、10時、八木駅に集合。

今回も大盛況、総勢28名。大和盆地を歩きながら、山容を変化させる大和三山を楽しみ、山頂に登って古代の浪漫をかいま見る、14キロのコース。

まずは、こんもりときれいな円錐形をした耳成山（別名 榎子山）へ向かいます。

耳成山は三山の中で最も低いが、均整の取れた山容である。

アラカシ、シラカシ、アカガシ、シャシャンボ うっそうと茂った林の中を登って山頂へ、三等三角点にタッチする。その横には明治天皇が軍の演習を展覧した碑が建てられている。耳成山を後に天香具山へと向かう。

途中の醍醐池でマガモやカルガモが気持ちよさそうに泳いでいるのを眺めていると、誰かが「来年の花見はここに決まりや!」「ほな場所取りしとこか〜」土手はみごとな桜並木になっている。気の早い人達である。

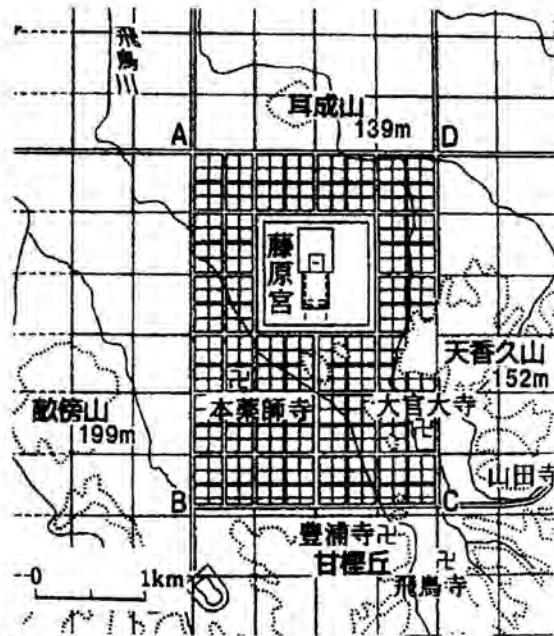
そろそろお腹も空いてきて、ちょうどここ大和三山が見渡せる藤原京跡で昼食となった。

三山の山頂を線で結んでみると、その中に藤原京がその中にすっぽりと入るのだ。その昔ここは政治と文化の中心だったのであろうが、今は大極殿と朝堂院の一部が整備されているだけで、だだっ広い田園風景が広がるのみである。

ふと足元を見るとなにやら黒い得体の知れない物があちこちの小石や砂の上に乗っかっている。アラゲキクラゲで食べられるというしるものだ。

『春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山』（持統天皇）百人一首でおなじみであるが、古代より神聖な山として進行の深い天の香具山。

南麓には、天岩戸の神話で有名な天岩戸神社があるが、岩穴は竹林で覆われよく見えなかった。



最後の畝傍山に向かう。

雨がポツポツ、天気予報おお外れ！本薬師寺に立ち寄ってみる。

天武天皇が、皇后の病年平癒を祈願して建立した寺で、西ノ京にある薬師寺の前身であるが、平城遷都の際に西の京に移転し、今は金堂と東西両塔の土壇と礎石が残るのみである。

その礎石を見た後、樋口さん、テツ&トモの物真似よろしく歌いだした。「なんでだろ～なんでだろ～×××××なんでだろ～」顔はちょっと更けているけど手振り身振りはそっくり。もう一度アンコールしたいよ～

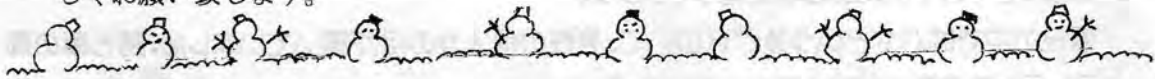
雨はまだ降り止まず。赤い鳥居と紅葉が映える畝傍山口神社にお参りし、山頂に到着。

おお！西の二上山、葛城山、金剛山、少し煙ってはいるが見える見える。ここから晴れた日には素晴らしい夕日が見られるそう。歴史と浪漫に溢れた古代の大和三山巡り、もう一度訪れてみたい。今度は晴れた日に。ちなみに歩数計は27000歩を示す。

まだこれで終わりではない。最後の締めがある。ネーチャーならの益々の発展を祈って居酒屋へ足を向ける。

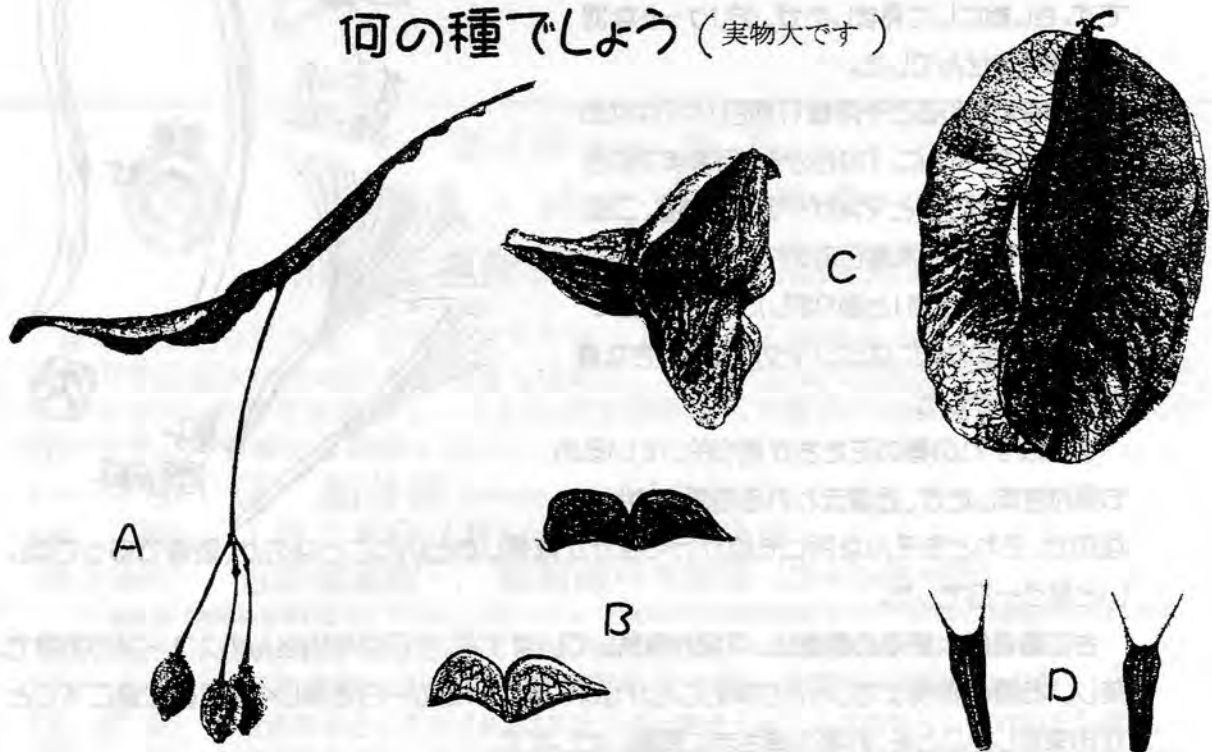
盛り上がったことは言うまでもない。幹事さんお世話様でした。

いつもながら下見、本番と念入りにチェックして下さり頭が下がります。これからもよろしくお願い致します。



はてな？ はてな？ はてな？

何の種でしょう (実物大です)



第3回東海自然歩道観察会「室生寺」

小田久美子

室生寺バス停で、前回から始まった準備体操で体をほぐし、22人は元気に歩きます。まずはシダのお勉強、室生寺内に入りました。奥の院への石段辺りには四国、九州にしかないシダが多く自生し、暖地性シダの北限に当たり天然記念物に指定されていると聞いたとたん、みんな貴重種に見えてしまいました。沢山の名前はなかなか記憶に残りませんが、ウラジロの説明の時「茎」と思っていたのが「葉柄」で、毎年二枚ずつ出る葉のように見えるものもカニクサと同じで、ずーっと成長し続ける一枚の葉なのです、と説明を受けビックリ。これはちょっと記憶の引き出しにも残るかなと思いました。

今年は美しい紅葉を見られませんでしたし、秋をしっかり認識できないまま落葉の季節を迎えましたが、自然たちはちゃんと冬の準備を始めています。サネカズラ、ヤブコウジ、カラスウリ、カナメモチ、ヒヨドリジョウゴ、ハダカホオズキ、サンシュユ、テンナンショウ属、ツルリンドウなどの赤い実、アオツツラフジ、コムラサキ、ムラサキシキブ、ヤブムラサキなどは、青い実をちゃんと用意してそれぞれのお客様を待っています。

清流の中ではハヤという魚が沢山いて、男性の何人かの目が輝いていました。落ち葉の間に種と思われるものがあちこちにありました。とても繊細で美しいものだったので持ち帰りましたら、主人がテイカカズラだと教えてくれました。シニアの授業で秋にはサヤを見たそうです。さし絵にして見ましたが、デリケートな羽状は描けませんでした。

大野寺に降りると十月桜(「朝日」の「はなおりおり」<11/17>に、「10月から4月頃まで咲き続けるヤマザクラとマメザクラとの雑種、二度咲きの桜で、群馬県鬼石町の“三波川の冬桜”は国の天然記念物」とありました)が控え目に咲いて、民家の庭にはミツマタがもう大きな蕾をつけていました。

季節はずれの春の花たちが返り咲いているのも気付きましたが、近頃云われる温暖化のせいなのか、それともそんな所にも目が行く自分が成長したということなのか、後者であってほしいと思う一日でした。

さて最後は大野寺の磨崖仏。何度か拝見していますが、今日は寺田さんのスコープのお陰で、美しいお顔の表情までしっかり拝むことが出来、暖かい冬の日を楽しく有意義に過ごすことが出来ましたことを、幹事の皆さまに感謝いたします。



今年も元気で！！



阿部和生

“ふる里や どちらを見ても 山笑う” 子規 山を擬人化した表情豊かな日本語の表現「山笑う」を見つけたとき、とても楽しくなったものです。俳句の季語はすばらしい表現、宝の山に思えます。「山笑う」は春になると山の樹々が芽吹き、明るく生気に満ちた感じを、如何にもうまく表現しているのではないのでしょうか。冬の表現は「山眠る」、秋は「山装う」と季語にあります。

昨年の秋の紅葉は私にとってとてもすばらしいものでした。当初、異常気象の為か桜の葉が早く落ちたり、赤茶けた樹々に失望していました。それが晩秋にかけて様変わり、少しずつ良くなり、出掛ける先々で山が織りなす色彩に感動しました。雨続きの翌早朝の無人の神峰山寺のみじ、生駒暗峠から眺めた四囲の山々、磐船街道ほしだ園地の紅葉等々、次々と行く先々で新鮮な驚きを与えてくれました。2003年の秋は特別に美しかったと感謝したものです。

「奈良・人と自然の会」は設立時から会員ではありましたが、実際に活動を始めたのは、昨年の春からです。すでに先輩諸氏のご努力により会報が刊行され、月例会が催され、東海自然歩道・自然観察会がシリーズとして定着し、工作教室が活動しているところへ着地受け入れてもらったのです。まことに個性豊かな皆様が、それぞれに力を出しておられます。さらにこの会だけでなく他のいろいろな活動も併せて行っておられることに、大変な刺激を受けたものでした。

下準備や雑用を引き受けておられる方、山々に詳しく何を尋ねても適確に返事もらえる人、植物は季節を問わず知識の豊かな方、口には出さないけれど鳥のことは百般何でも教えて下さる方、博覧強記とはこの人の為の言葉だと思える人、野菜作りに一家言ある方、周囲を和ませ笑顔を消さない人、巨木調査を地道に続けておられる方々などなど全く多士済々です。こうしたすばらしい人達に巡り合い錆びていた五感に少しずつ生気が戻ってきたのではないのでしょうか。自然を愛でる、受け止める力が出てきたように思います。

日だまりにぼんやり外を眺めていて「紅葉の美しさ」を感じたのは、自然界の変化や美を受け止めることのできるよう私自身が皆様から感化されたのではないかとふと気づきました。2003年の各種催事に加え新年2004年は、又別のいろいろな企画があると仄聞します。奈良県下国有林の間伐整備や黒髪山キャンプフィールドへの講師派遣、社叢林への取口などますます会の中身が充実してきます。なかなかすべての催事に参加することは難しいけれど、可能な限りの出席を心掛けたく思います。それは笑顔や元気を頂き、活力を渡されて次へのエネルギー源ともなるのでしょう。自然を愛し環境を大切にするとしよう共通の認識の下で、会員相互の交流、活動がますます活発になることを願っています。

多様な生態系は大きな豊かさを生むように2004年も多彩な一年になるであろうと楽しみます。



寺田正博

七草粥の由来

芹、薺、御形、**蘇葉**(はこべら)、仏の座、**苺**(すずな)、清白(すずしろ)

正月七日の朝、七草粥を食して祝う行事。七日正月、七草の祝いともいう。正月七日は人日(じんじつ)といい、五節供の行事の一つに数えられた。人日は中国の古俗で、徳川幕府が五節供の第一に人日を選んだのは名称をとっただけで、行事としては七草の粥が七種菜羹と似ているということである。日本では、大正月(一日)の終わり小正月(十五日)の始めとして、今年一年の邪気を払って七草粥を食べる行事である。

日本の書物で、新年の七日に新しい菜を食べることを最初に記録されているのは『皇太神宮儀式帳』(804年)である。「七日新菜御奉作」と、新しい菜を羹(あつもの)にして奉ったことが記されている。当時の羹は現在の熱い汁にあたる。ここには菜の数は記されていない。七種に定着するのは平安時代中頃からであろうと言われている。

911年正月七日、後院(醍醐天皇)から七種菜(ななくさな)が献じられたことが、一条兼良の『公事根源』(1422年頃)に載っている。それらの七種が何であったかは明記されていない。七日に使われる七種の菜は若菜ともよばれ、野外で摘まれた。

『土佐日記』には935年正月七日の記に

「七日になりぬ。……若菜ぞけふをばしらせたる。うたあり。そのうた、

あさじふののべにしあればみづなきいけにつみつる わかななりけり」とあるが七草の種類は記載されていない。

鎌倉時代の『年中行事秘抄』(1293~98年)には、「薺(なずな)、**蘇葉**(はこべら)、芹(せり)、**苺**(すずな)、御行(おぎょう)、須々代(すずしろ)、仏座(ほとけのぞ)」とされており、順序は違うが、この七種は現在の七草粥と同じ構成である。七草の行事は古くから、子(ね)の日の遊びともいわれ、正月最初の子の日に、近くの野原に出て若菜を摘む風習があった。正月上子の日は必ずしも七日ではないが、正月始めの行事として似ていたため、江戸時代に徳川幕府が五節供の一つとして正月を式日と定めると、そこに吸収されてしまう。

六日の夜、俎板の上に七種の道具・火箸、搗粉木、御金、杓子、割薪、菜箸、火吹竹・を並べて俎板を七度叩き、菜を包丁で切り刻む。これを七草叩きという。そのとき

「七草なずな、唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先に、七草なずな」と言葉を七回唱える風習がある。地方によって種々の言葉があるようだ。

呪いであり、神の力にすがって年の初めに外敵が来ないようにと願うのである。

「唐土の鳥」とは、鬼車鳥、夜行遊女、隠飛鳥などといわれ、夜飛び回って女を食べるという。またこの鳥は人の爪を拾って食べるので夜に爪を切るなともいう。唐土の鳥を神の力で追い払う、それは作物の害敵鳥を追い払って豊作を祈る気持ちに通じている。

七草は、日本古来の風習であったが、正月七日と月日を限定し、また七種類としたのは中国の習俗がルーツのようだ。それに加えて、日本の呪術的な要素も結びつき、現代に続く「春の七草」となったといえよう。

御行一ハハコグサ。仏の座一コオニタピラコ。(すずな)一カブラ

清白(すずしろ)一ダイコン。種々異説があるようである。

参考引用文献 「年中行事を科学する」永田久 「こよみ読み解き事典」柏書房

「植物と行事」湯浅浩史 「日本年中行事辞典」角川小辞典 「土佐日記」紀貫之

2004年の初夢 “いこまの棚田” に夢を描こう！

出口 育 宏

新年あけましておめでとうございます。

「奈良・人と自然の会」は会員数の増加と共に活動の幅も“自然観察会から自然保護へ”
“個人の楽しみからボランティア活動へ”と広がっていることは喜ばしい限りで幹事さんを始め
会員の皆様の自然に対する熱い思いをひしひしと感ずります。

さて、私もひょんなことから「いこま棚田クラブ」
にはまり込んでしまいました。

昨年6月より、奈良・人と自然の会が中心になっ
て、シニア自然大学の自然保護部や里山クラブ、
その他有志が集まってくらがり越え奈良街道沿い
にある生駒市西畑地区の棚田の復活・再生に地元
の人々と一緒に取り組むことになりました。

その後、週1回の活動日を設定し（これはかなり
厳しいスケジュールですが、休耕田の草ぼうぼうの
現状を見るにつけ、また、参加者が都合のつく範囲
で月2回は参加したいとの要望もあり）気がつけば
26回も“いこまの棚田”に通っていました。

地元の方（民有地）と協働で活動を続ける為に、昨年10月には“いこま棚田クラブ”として
会を発足しました。

当然のことながら、「奈良・人と自然の会」、里山クラブ、シニア自然大学という組織のバック
アップがあつてのことは言うまでもありません。

持続可能な活動（できる範囲で、それぞれが参加者が楽しい）が大前提です。
あれもしたい、これもしたい。みんなと話していると夢がいっぱい広がりとても楽しい気持ちにな
りますが、夢を夢で終わらせるのではなく5年後の棚田の姿、3年後の棚田は・・・のビジョンを
決めて、まずは2004年の絵を描いてみたい。

石垣の美しい棚田、神田川のサラサラと流れる水音、あぜ道に咲く山野草との出会い、
くらがり峠へ行くハイカーとの語らい、地元の方と一緒にの農作業のお手伝い、一からの
稲田作り、シイタケの栽培、麦を植え、いもを植え、四季折々にイベント的な催しを、そしてマ
ムシに怯えながらの汗だくだくの草刈り、等々。

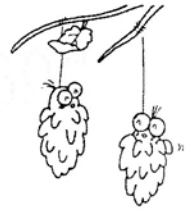
そこは自然も美しいが、人と人との暖かいところの交流があります。

みんなで一緒に“棚田に吹く風を感じてみませんか！”



シイタケのホダ木作りにコナラの伐採

生駒棚田日記(2)



大寺道代

- 9月28日(日)[フリー]・稲刈り、はざ掛けの後チェック。今後のための棚田探索、落穂集め、畑の草抜きと草刈、次回作業場所の確認。はざ掛けの竹が折れたため、見学に来ていた小田さん夫婦が修復してくれる。(参加4名・2名)
- 10月5日(日)[脱穀]・9月14日に刈り取った餅米の脱穀作業。わら束は畑に塔を作り、残りは川田さんの倉庫に保管。12月の注連縄つくりにする。初殻を集め火をつける。(参加6名・地元2名)
- 10月6日(月)[草刈・ミーティング・大根の種まき]・雨のため、草刈中止。午前中ミーティング、午後地元代表と今後の方針の打ち合わせ。会の名称は“いこま棚田クラブ”と決定。2畝の畑に大根の種をまく。(参加11名・地元2名)
- 10月12日(日)[草刈]・景観確保のため、ソバ畑のセイタカアワダチソウを鎌で刈る。背丈を越す草に悪戦苦闘。マムシに出会わぬよう念じながら作業を進める。(参加8名・犬・川西市在住クロスケ1匹)
- 10月19日(日)[草刈]・先週に続き草刈。この日は草刈機が入り作業がはかどる。アワダチソウを刈り取った後にガマの穂が顔を出す。見えなかった奈良の山脈が眼下に現れる。草を燃やし、焼き芋を作る。(参加7名)
- 10月26日(日)[草刈]・竹林の石垣付近の草刈と整備。大根の間引き。(参加9名)
- 11月2日(日)[枯れ草焼き]・来年田植え予定の田んぼで枯れ草を焼き整備する。草刈・芋掘り。(参加8名)
- 11月10日(月)[駐車場の草刈]・ねぎ畑の草抜き。(参加8名)
- 11月16日(日)[収穫祭]・ソバ、大豆、黒豆刈り取りとはざ掛け。参加者多数のため、作業午前中でほぼ終了。地元の人々総出でもちつき、おにぎり、猪なべ、バーベキュー、おでんで歓待してもらう。“棚田クラブ”はシニア自然大学野草料理チームが応援料理でもてなす。後日、朝日・読売新聞に記事掲載。(参加31名、県ソバ栽培指導員1名、生駒市役所3名、地元36名)
- 11月24日(月)[畑の整備]・芋畑後の土越しと周辺の草刈。石垣1面に黄色い菊の花(アブラキク?)。(参加11名)
- 11月30日(日)[草刈機安全使用講習会]・新しく購入した機械の使用講習会。午前中説明・指導を受け体験する。午後シイタケ栽培の仕方を地元経験者に習う。里山の木の利用許可を得る。芋畑後に畝を2本。小麦、ドイツ小麦(高価な種)を蒔く。(参加16名、講師1名)
- 12月7日(日)[ソバ脱穀]・地元の方と一緒にソバ、大豆、黒豆の脱穀を手伝う。昔の脱穀機(マメ専用)が活躍する。大豆に土の塊が混じり、選別に時間がかかる。収穫時に土を落とす作業をしなかったため。豆ガラは焚き火にする。

(参加8名・地元16名)

- 12月8日(日)[シイタケ栽培用ホダ木伐採]・里山に入り竹、アオキを取り除き整備する。
竹を切った後は太陽が差し込んで明るい。午後からホダ木用の木を切る。
竹林の伐採も行う。密集した竹林はまだ薄暗い。(参加16名)
- 12月14日(日)[忘年会]・午前は伐採した竹の整備。午後は地元の方を招待し、集会所にて鍋パーティーを実施。急速に親しくなった方達と棚田の今後について話し合い盛り上がった。着々と実行できそうだ。畑のワケギ、大根、ヤマトネギが活躍した。(参加16名・地元13名)
- 12月21日(火)[しめ縄作り]・地元の方の指導でしめ縄づくりの講習会。

活動を始めて約半年、少しずつ進んでいるようです。新しい年は植物や自然観察も平衡できたらと考えています。行事計画をしっかりと立てていきたいと思っています。



ネイチャーなら
奈良・人と自然の会
第4回 東海自然歩道...自然観察会

(ぬかいだけ)

新年の東海自然歩道、初歩きは大和富士と呼ばれる額井岳(822m)の山麓を巡り、国見山や室生火山帯の山々を遠望しながら、戒長寺では天然記念物指定「お葉つきイチョウ」の冬芽を観察し、さらに室生湖畔から大野寺へお正月の自然観察会を行います。気楽にご参加ください。

- 〈コース名〉 ④ 額井岳 (ぬかいだけ) [12 km]
〈日 時〉 1月19日(月) 9時 集合
〈集合場所〉 近鉄榛原駅：北駅前バス乗場(針インター行)
・西大寺[橿原神宮前行急行]7:56...八木8:17 or [西大寺[天理行急行]8:07...平端8:16乗換...八木8:36]
・近鉄ナンバ[奈良行準急]7:57...鶴橋8:02乗換[青山町行区快]8:07発...八木8:37...榛原8:50着
〈行 程〉 近鉄榛原...玉立橋~戒長寺~室生湖~大野寺~室生口大野
〈参加費〉 資料代等として10月から3月までの半期分：@200円を申し受けいたします。
〈担 当〉 川井秀夫 寺田正博 弓場厚次

1月例会 河野猪大夫先生と歩く 奈良公園自然観察会と講演会

自然観察会

日時 1月27日(火) 9:00

集合 近鉄奈良駅 地上階 行基菩薩噴水前

行程 9時～12時頃 奈良公園 (飛火野～春日山原始林一部)

講演会

『繊細な地球と環境問題』

講師 河野猪大夫先生(環境カウンセラー)「9月明日香の彼岸花観察会」講師

会場 国際奈良学セミナーハウス

時間 13時30分～15時30分(質問時間を含む)

受付 13時より会場にて

申し込み・受講料不要

講演会のみ受講もできます。

会員外の何方でも参加できます。歓迎いたします。

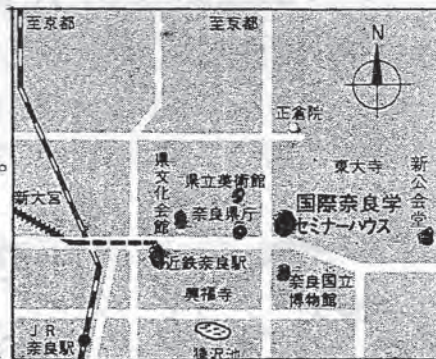
会場場所

近鉄奈良駅より東へ徒歩10分 北側

奈良交通市内循環バス

県庁東(国際奈良学セミナーハウス前)下車

担当 寺田正博



ネイチャーなら 奈良・人と自然の会

第5回 東海自然歩道...自然観察会..

厳冬の東海自然歩道、玉立橋から青龍寺を経て鳥見山公園へ。新雪の森ではシカやノウサギのANIMAL TRACK(足跡)が見つかるかも。公園から標高400～500米の尾根道を辿り、「花のみてら」長谷寺に向います。どなた様も気楽にご参加ください。

〈コース名〉 ⑤ 鳥見山公園(とみやまこうえん) [12km]

〈日時〉 2月11日(水) 9時50分 集合

〈集合場所〉 近鉄榛原駅 : 北口駅前バス乗り場(針インター行)

・西大寺[橿原神宮前行各停] 8:46発...大和八木9:15 (西大寺[橿原神宮前行特急] 9:14発...大和八木9:30)

・近鉄ナンバ[奈良行快急] 8:43発...鶴橋8:49乗換[青山町行急行] 8:55発...大和八木9:33...榛原9:46

〈行程〉 近鉄榛原...玉立橋～青龍寺～鳥見山公園～まほろば湖～近鉄長谷寺

〈参加費〉 参加費として10月から3月までの半期分: @200円を申し受けいたします。

〈担当〉 阿部和生 | 寺田正博 弓場厚次

2月例会 『野鳥観察会』

去年はトラツグミ・ハマシギ・アオゲラとめずらしい野鳥に出会いました。今年はどんな鳥に出会うのか楽しみです。気軽にご参加下さい。

記

1 日 時	2月 16日(月) AM10:00~PM 3:00
2 場 所	奈良公園 一帯
3 集 合	近鉄 奈良駅 行基菩薩像前 AM 10:00
4 講 師	長野 晃氏 (当会会員 奈良野鳥の会 幹事)
5 準 備	弁当持参、 双眼鏡・スコープ 等 観察用具

連絡先 長野 晃
川井 秀夫

【いこま棚田クラブ】

いこま棚田クラブのご案内・・・棚田に吹く風を感じて見ませんか！

いこまの棚田では“収穫祭”や“そばの脱穀”も終わり新たに“シイタケの栽培”に挑戦します。

1月2月はコナラ、クヌギ林の木を切ってシイタケのホダ木作りや菌の埋め込みを行います。並行して棚田の整備(石垣だし、神田川の草刈り)も行います。

1月11日(日)の進路説明会ではブースを設けて活動紹介をします。

興味のある方は是非来てください。

- ◆ 1月活動日 1/12(月)、1/18(日)、1/26(月)
- ◆ 2月活動日 2/1(日)、2/9(月)、2/15(日)、2/23(月)
- ◆ 集合場所 近鉄生駒駅下車(鶴橋駅より快速15分)
南口ケーブル駅西隣りセブンイレブン前 9時30分
(現地まで車で移動(15分))
- ◆ 持ち物 弁当、飲み物、観察用品、軍手、長靴、草刈り鎌(有る人)

お願い：生駒駅からは車で移動します。参加者は事前にtelまたはfaxで下記までご連絡願います。

事務局 大寺道代(シ8期) 1

2003年12月度幹事会報告

1. 日時： 12月5日(金) pm6:00~8:00
2. 場所： 奈良県文化会館
3. 司会： 弓場 記録 阿部
4. 出席者： 川井 豊島 寺田 小山 弓場 樋口 勝田 大寺 大石 阿部
5. 議事：

【報告事項】(討議事項含む)

- ① 会員動向 92名 会計報告 110,907円
- ② 11月度例会「みたらい溪谷自然観察会」 参加者14名
- ③ 「東海自然歩道・自然観察会」第2回「奥香落」 参加者25名
11月なので花は少なかったが、好天に恵まれ紅葉を愛でた。
- ④ 黒髪山キャンプフィールド自然塾
来年度当自然塾への参加要請があり、当会としても取り組むことに決定。年3回程度の担当。詳細は樋口幹事に一任。
- ⑤ 「いこま棚田クラブ」
11月例会は5回。うち16日は地元主催の収穫祭で総勢80余名の参加。朝日・読売新聞にも報道された。12月から棚田整備と並行して椎茸作りにも取り組む。
- ⑥ 国有林間伐エリア(奈良市忍辱山)下見報告
当会から4名、営林局2名参加。円城寺口バス停から徒歩10分程。取り組み場所として適切と判断。当会として16年実施を目ざして、積極的に推進することに決定。詳細は寺田幹事に一任。

【討議事項】

- ① 1~3月の行事確認

「幹事会」 1月9日、2月6日、3月5日 pm6:00から 奈良県文化会館にて
「月例会」 1月27日(火) 「奈良公園自然観察会と新春講演会」 河野猪太夫先生
9~12時奈良公園、pm1:30~講演会 国際奈良学セミナーハウス(寺田)
2月16日(月) 「奈良公園の野鳥観察会」 am10:00~pm3:00 (川井)
3月25日(水) 「矢田公園一野草料理と竹笛」(豊島・樋口)
「東海自然歩道・自然観察会」(弓場・寺田)
第4回 1月19日(月) 「額井岳」近鉄榛原駅9時集合 (川井)
第5回 2月11日(水) 「鳥見山公園」(阿部)
第6回 3月25日(木) 「初瀬街道」(豊島)

- ② 機関紙「新年号」について

平成16年1月号は年内発送できるよう刊行する。会長の巻頭挨拶等を掲載する。

- ③ その他 今期自然大学修了生への入会アプローチを工夫する。

編集後記：・・・今年も日常の活動や身近な自然など楽しい投稿をお願いします。

クイズの答え

A (ボダイジュ) B (ヌスビトハギ) C (オオモクゲンジ) D (アメリカセンダングサ)

編集担当 : 勝田 均

Tel & Fax

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫